

官民一緒に取り組む “美しい森林づくり推進国民運動” 実行中

森林が 美しい国、日本 の礎となるように
政府一体となって美しい森林づくりを進めていこうとの考えから
国民の皆様からの理解と協力のもと
木材利用の推進や地域づくり、森林づくりへの参画促進を進める
“美しい森林づくり推進国民運動”。

今春からスタートしたこの運動は、全国各地で積極的に展開されています。
官民が一緒に取り組むこの運動で、具体的にどんなことが行われているのか
主な活動をレポートします。

森林・林業面における
花粉対策



「5月4日はみどりの日」
キャンペーン



“みどり”への功績をたたえる
みどりの式典



“みどり”への功績を
たたえる
みどりの式典



天皇皇后両陛下の前で、受賞者を代表してお礼の挨拶を述べる名古屋大学名誉教授の杉浦昌弘氏



おことばを述べられる天皇陛下

第一回目の今回は 総勢一五個人・団体が受賞

快晴に恵まれた四月二十七日（金）、東京都千代田区にある憲政記念館において、天皇皇后両陛下の御臨席をおおぎ、関係大臣が出席して、第一回みどりの式典が開催されました。今年から始まったこの式典では、二つの表彰が行われました。

一つは、“みどり”について国民の皆様が造詣を深めていただけるように創設された「みどりの学術賞」の受賞者を発表し、表彰するというものです。“みどり”に関して、学術上顕著な功績があった個人が選ばれ、受賞されます。第一回目の今回は、名古屋大学名誉教授の杉浦昌弘氏と、東北大学大学院生命科学研究科教授の浅野（旧姓：中静）透氏のお二人が受賞されました。

もう一つは、緑

化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人や団体を称える「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」です。昭和五十九年から始まり、今年で24回目を数えます。今回は、青森県青森市で緑化活動に尽力する石戸谷忠夫氏をはじめ、三名の個人、八つの団体、一つの学校、一つの地方公共団体の計一三個人・団体が受賞されました。

受賞された方々は一様に“みどり”に対して自主的に活動されており、これを機に、今後益々の活躍が期待されます。さらに、この方々の活躍が広く知られることで、同様の活動が全国的に波及していくことでしょう。

第一回みどりの式典受賞者の顔ぶれ

【みどりの学術賞】

- ・杉浦昌弘（名古屋大学名誉教授）
- ・浅野（旧姓：中静）透（東北大学大学院生命科学研究科教授）

【平成19年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰】

- ・石戸谷忠夫（青森県青森市）
- ・高柳英麿（神奈川県鎌倉市）
- ・服部恭子（北海道北見市）
- ・いばらき森林クラブ（茨城県那珂市）
- ・大野川桜づつみ愛護会（大分県大分市）
- ・清里町花と緑と交流のまちづくり委員会（北海道斜里郡清里町）
- ・熊野自然保護連絡協議会（和歌山県東牟婁郡智勝浦町）
- ・津山市野村町内会（岡山県津山市）
- ・富士宮市白糸財産区（静岡県富士宮市）
- ・プラス株式会社 前橋工場（群馬県前橋市）
- ・松之山小学校緑の少年団（新潟県十日町市）
- ・島根県立出雲農林高等学校（島根県出雲市）
- ・松本市（長野県松本市）



塩崎恭久内閣官房長官から授与



「5月4日は
みどりの日」
キャンペーン

子供だけでなく大人も夢中になってイベントに参加



緑の募金キャラクター「どんぐりくん」も参加

豊かな緑に囲まれた
山イベント

今年から五月四日が「みどりの日」になったことを受け、この日は全国各地でイベントが開かれました。東京都八王子市にある緑豊かな高尾山で行われたイベントも、その一つです。イベント当日は最高気温27度、天気にも恵まれ、家族連れなど約三万人の人が訪れ、五月の美しい木々の緑を楽しんでいました。

会場では、クイズを解きながらあちこち移動して回るクイズラリーやイベント広場でのワークショップ、コンサートやポスターなどの作品展示などさまざまなイベントが開かれました。なかでも、にぎわっていた会場はイベント広場でした。男の子には丸太切り体験や、木や竹で作ったおもちゃのコーナー、女の子には木や落ち葉などを使ったクラフト体験コーナーが人気で、森林ボランティアの方々から遊び方や作り方を教わり、嬉々とした表情で、自然の中での遊びを堪能していました。普段なかなか自然の中で遊ぶ機会のない子供たちにとって、生きた木々に囲まれて遊ぶこと、森林のある空間のよさや木々の大切さを知る絶好の機会になったのではないのでしょうか。

イベント

森の
面白クイズ
ラリー

森の知識を楽しみながら
身につけるクイズラリー

高尾山の花木や歴史に関するクイズを解きながら歩く「森の面白クイズラリー」が行われました。午前中にはラリーのチェックシートがなくなるほどの盛況ぶり、老若男女問わず多くの方が参加していました。

スタートは高尾山1号路で、コースはシャガ広場や布流滝、金比羅台、城見台、アカガシ広場の五つのポイントを回ります。各ポイントには森林インストラクターが常駐し、クイズのヒントや高尾山の自然について解説していました。また、コース途中には普段目にする機会の少ない高尾山の花々が咲いており、参加者たちの多くが足を止めて花々を興味深く眺めていました。

五つのポイントを回り、すべてのクイズに正解した人は、イベント広場で行われている抽選会に参加でき、さまざまな景品を手にしていました。



各ポイントに、クイズボードを設置

イベント

「みどりの日」ワークショップ

幹や枝、落ち葉など
森林の恵みを使った遊び体験が充実



↑ 日差しの強い中、子供たちは元気にワークショップに参加



← さまざまな葉で作られたしおり

高尾森林センター（高尾自然科学博物館跡地）入口に設けられたイベント広場では、炭焼き実演やお花炭、丸太切り体験、木や竹で作ったおもちゃ体験、木や落ち葉を使ったクラフト体験など、森林の恵みを取り入れた遊びが用意されました。

森林ボランティアの方々が丁寧に解説しながら、男の子は一生懸命に

木を切っていたり、女の子は楽しそうにアクセサリーのデザインを考えていたり、参加した子供たちは普段とは違う遊びに没頭していました。しかし、そんな子供たちに負けじと夢中になっていたのが大人たちでした。遊ぶ子供と一緒に、童心に返って木遊びに夢中になっている大人たちの姿が印象的でした。

イベント

森のクイズと草笛&ギターコンサート

森林ボランティアによる
クイズとコンサートを開催



多くの子供たちがクイズやコンサートに夢中でした

高尾登山鉄道・清滝駅前の特設ステージでは、森林ボランティアの方々によるクイズ大会とコンサート

が開催されました。ステージの前はたくさん子供たちで賑わい、みどりの日や子供の日に関するクイズに一喜一憂していました。

また、草笛とアコースティックギターを使ったコンサートでは、子供たちが森林ボランティアの方々と一緒に手遊びをしたり、歌をうたったりと、心温まるなごやかな時間が流れていました。

イベント

緑化運動推進ポスター原画コンクール作品展示会

ポスター原画コンクールの
入選作品を展示



さまざまな品種のサクラを一度に見られるのは圧巻

多摩森林科学園では、「緑化運動推進ポスター原画コンクール作品展

示会」が行われ、絵をモチーフにした作品の数々が展示されました。シンプルな構図のものあれば、顔負けのものもあり、観覧に訪れた人たちの目を楽しませていました。

また、園内には、全国各地から集められたさまざまな品種のサクラ約千七百本が植えられたサクラ保存林があり、この日は無料で一般公開されました。奈良の八重桜など、見ごえるを迎えたサクラが園内を彩っていました。

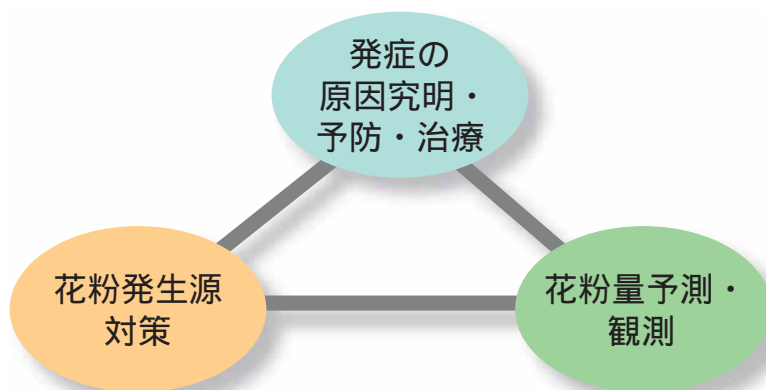
森林・林業における花粉対策

花粉発生源の抑制と森林育成の両立を目指す

今や、国民病とも言われる花粉症。これまで、その対策として、症状を軽減する目的で医薬品の開発を中心に活発な活動が行われてきましたが、根治を目指す活動はほとんどされていませんでした。そんな中、農林水産省では、花粉症の原因の一つであるスギやヒノキの花粉を抑える活動を早くから開始し、昭和六十二年に花粉飛散量の調査を始めたほか、さまざまな調査・研究を進めてきました。そして平成一九年四月、花粉発生源対策をより強化するために、林野庁内に花粉発生源対策プロジェクトチームを設置しました。

このチームでは、現行の花粉発生源対策を評価し、今後の対策プログラムを組むという大きな役割を担っています。そして、プログラムをも

花粉対策における政府一体での取り組み



とに、各都道府県等と連携を取って、花粉発生源の抑制を推進していきます。

同時に、花粉症の症状や症状悪化の原因究明、予防・治療、花粉発生源に関する対策などを総合的に推進することが不可欠であることから、農林水産省や文部科学省、厚生労働省、気象庁、環境省などの関係省庁と連携を取り、抜本的な花粉発生源対策に取り組んでいきます。

花粉対策 具体案

1 花粉症対策品種の開発・普及

少花粉・無花粉スギを開発し 新方式の苗木生産で供給を加速

独立行政法人林木育種センターでは、これまでに二二品種の少花粉スギと無花粉スギ「爽春」の開発に成功しました。少花粉スギは、通常のスギに比べて花粉量が一%未満と極微量であり、花粉症への有効な手段であると期待されています。平成十七年には、約九万本の苗木が造林地に供給されました。また、採種園整備用の無花粉スギの原種二六〇本



無花粉スギ「爽春」

が、都府県に配布されています。

これらの花粉症対策品種の供給を加速するために、マイクロカッティング方式という苗木生産の普及を進めています。この方法は通常のさし木に比べて大量に増殖できる効率的な生産方法で、今年からモデル事業がスタートし、今後本格的な導入が期待されます。

また、花粉の少ないヒノキ品種の開発にも取り組んでいます。

マイクロカッティング方式とは……

通常のさし穂よりも長さが短く、短時間で増殖が可能なのが特徴。品種特性を100%受け継ぐため、少花粉・無花粉スギの供給の加速が見込まれます。



マイクロカットされた
さし穂

通常のさし穂

2 多様な森林づくり

**広葉樹林や針広混交林に誘導し
多様な森林づくりを推進**

日本における人工林の面積は
一〇三六万ヘクタールであり、森林
全体の約四割に当たります。なか
でも、スギ林は四五二万ヘクタール
(森林面積の約18%)、ヒノキ林
は二五七万ヘクタール(同10%)と、
多くを占めています。

林野庁では、花粉の元となる雄花
の量が多い木、少ない木があること
に着目し、雄花の量の多いスギ・ヒ
ノキ人工林における重点的な間伐を
推進しています。これにより、森

林の機能の向

上を図りつつ、

当面の花粉発

生量の縮減が

期待できるの

です。

また、都市

周辺のスギ人

工林やヒノキ

人工林におい

て、広葉樹を



広葉樹林の造成



広葉樹と混生させることで針葉樹の花粉を減少

育て、広葉樹林や針広混交林へ誘導
するための抜き伐りを実施していま
す。

3 都市周辺の取り組み推進

**花粉飛散発生源の調査と
普及・啓発活動**

林野庁では、平成十八年から、東
京を中心とする首都圏の飛散発生源
調査を開始しています。この調査が
進むことで、都市部へ飛来する花粉
の発生地域や飛散によって影響の出
るエリアなどが推定されるようにな
ります。その結果、花粉発生地域を



森林ボランティアによる、花粉の少ない森林づくりを推進

広葉樹林へ誘導したり、花粉発生源
対策品種を植栽するなど、立地条件
に応じた取り組みが可能になるので
す。

また、里山や都市近郊のスギ・ヒ
ノキ林において、緑の募金や住民の
森林ボランティアを活用した、花粉
の少ない森林づくりを推進します。
国民参加の森林づくりに対する意識
向上にもつながり、幅広い花粉対策
の普及・啓発活動が期待され
ています。